

# 第93期事業報告書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで



**エスビー食品株式会社**

株主の皆様にはますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

平素は格別のご支援ご愛顧を賜わり、誠にありがとうございます。たく厚く御礼申し上げます。

ここに当社第93期(平成17年4月1日～平成18年3月31日)の営業の概況と決算のご報告を申し上げます。

当期のわが国経済は、企業収益の改善と民間設備投資の増加に支えられ、緩やかに回復してきました。

食品業界におきましては、個人消費が本格的回復までには至らず、また、原油価格の高騰による素材価格の上昇などもあり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のなかで、当社グループは、企業理念「真の顧客満足の追求」のもと、グループ一丸となってお客様の視点に立った事業活動を推進してまいりました。「お客様の声」を製品の研究開発や改良・改善に活かしますとともに、「安全・安心」な製品をお届けいたしますため、引き続き品質管理・安全対策の強化に努め、当期より、今まで取り組んでまいりました原材料から製品に至るまでの生産履歴に関する情報管理システムを稼働いたしました。また、生産性向上のための諸施策を進めるなどトータルコストの低減に努めます一方で、販売面におきましては、お客様の視点での売場提案やメニュー提案を行い、きめ細かな営業活動を展開してまいりました。

以上の結果、当期の連結売上高は前期比39億5百万円増の1,143億75百万円(前期比103.5%)、連結経常利益は前期比1億8百万円増の39億35百万円(前期比102.8%)、連結当期純利益は前期比4億25百万円増の21億47百万円(前期比124.7%)となりました。

なお、当期中における設備投資は、洋風スパイスの「SPICE&HERB」シリーズ生産のための東松山工場における製造設備と業務用即席製品の生産拡大・品質改良に伴う上田工場の設備増強などを中心として、総額31億56百万円の投資を行いました。

また、当期中に、増資あるいは社債発行による資金調達は行っておりません。

今後の見通しにつきましては、引き続き企業収益の改善と民間設備投資の増加が見込まれ、景気の回復基調が続くものと期待されますが、原油価格高騰の長期化に伴う影響や海外経済の動向など先行き懸念材料があります。

食品業界におきましても、企業収益の増加から雇用・所得環境の改善による個人消費の回復が望まれます一方で、定率減税の縮小などの個人負担増もあることから、今後とも予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社グループといたしましては、このような情勢のもと、次の施策に取り組んでまいりたいと考えております。

企業理念として掲げました「真の顧客満足の追求」とは、お客様にとっての価値を知り、それに応え続けることでもあります。そこで、お客様より寄せられます「お客様の声」を企業の財産とし、より耳を傾け、製品やサービスに反映させるなど、あらゆる面でお客様の視点に立った活動をさらに推進してまいります。

製品の「安全・安心」対策では、引き続き品質管理の徹底を行いますとともに生産履歴に関する情報管理のシステム化をさらに進めていくなかで、検査体制の一層の充実にも努めてまいります。

「SPICE&HERB」というコーポレートシンボルのもと、洋風スパイスの新製品をはじめとするスパイスやハーブ製品をお客様のニーズに幅広く対応してご提供することにより、当社グループの強みを活かした商品政策・営業政策に注力いたします。

経営管理面におきましては、執行役員制度を活用し、取締役と執行役員の役割を明確にし、経営全般のスピードアップとコーポレート・ガバナンスの強化を図り、もって経営環境の変化に迅速かつ的確に対応いたしますとともに、取締役会のもと、内部監査室を中心として内部統制システムの充実・強化に取り組んでまいります。

企業の社会的責任に関しましては、皆様の食生活を担う食品企業として、当社グループならではの優

れた品質で、かつ安全で安心いただける製品の提供に努め、さらに皆様のご信頼ご支持を得て、社会とともに持続可能な企業であり続けられますよう、法令順守は勿論のこと企業倫理、社会貢献活動などへの取組みに最善の努力をいたしたいと考えております。

特に、自然の恵みによって得られるスパイスとハーブをお客様にお届けする当社グループといたしましては、地球環境保全を重要課題の一つと認識し、「環境方針」を策定し、環境に配慮した生産体制の整備や製品の開発・改良をはじめ企業活動全般から生じる環境への負荷の低減に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月



代表取締役社長

江戸龍太郎

●スパイス&ハーブ関連部門

<香辛料>

日本のスパイスとハーブをリードしてきた当社が、従来の洋風スパイスの主力シリーズを刷新した「SPICE & HERB」シリーズ194品を新発売いたしました。また、高品質タイプの「FAUCHON」スパイスや新しい価値を提案した新製品の「有機スパイス」、使いやすい小容量タイプの「スマートスパイス」ともども洋風スパイスが伸長しましたことにより、売上高は前期比4億61百万円増の145億42百万円となりました。



<即席>

即席市場が依然伸び悩むなかで、カレー、シチュー、ハヤシの主力製品である「とろける」ブランドシリーズが引き続きお客様の幅広いご支持をいただき、順調に推移いたしました。また、こだわりぬいたスパイスが香る上質な味わいの「スパイシーリッチカレー」やデミグラスソースの濃厚なビーフ感と深いコクが特徴の即席「デミカレー」などの新製品が貢献し、売上高は前期比10億99百万円増の325億9百万円となりました。



<香辛調味料>

「本生 生わさび」などの「本生」シリーズをはじめ、お客様の本物志向によりお応えした「生おろし本わさび」などの無着色シリーズが引き続き高い評価をいただくとともに、新製品の「柚子こしょう」や「もみじおろし」の寄与もあり、チューブ製品全体の売上を底上げしました。また、中華調味料でも李錦記ブランド製品が順調に売上を伸ばしましたことにより、売上高は前期比17億2百万円増の247億41百万円となりました。



<インスタント食品その他>

レトルトカレーにおきましては、デミグラスソースのコクと深い味わいが特徴のレトルト「デミカレー」が新発売以来ご好評をいただきました。一方、「カレー五人衆名人達のカレー」などの話題性・企画性に富む新製品を発売し、売上の拡大に努めました。また、パスタソースでは「生風味」シリーズに新製品の「いくら」をラインナップに加え、「予約でいっぱいのお店」シリーズも堅調に推移し、売上、シェアともに伸長しましたことにより、売上高は前期比6億9百万円増の250億66百万円となりました。



以上、スパイス&ハーブ関連部門の売上高は、前期比38億73百万円増の968億59百万円(前期比104.2%)となりました。

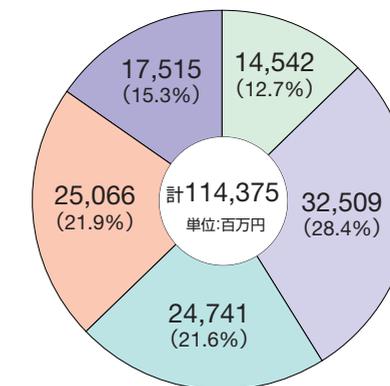
●その他の加工食品部門他

無菌包装米飯におきましては、具材付きのセット米飯「ピアット」シリーズが新製品の「ピアット一度は食べたいあの店」のカレーシリーズ4品の寄与もあり、順調に推移いたしました。また、調理済食品も前期実績を上回りました。

以上、その他の加工食品部門他の売上高は、前期比32百万円増の175億15百万円(前期比100.2%)となりました。



連結売上高構成比



■ 香辛料 ■ 即席  
■ 香辛調味料 ■ インスタント食品その他  
■ その他の加工食品他

「SPICE & HERB」シリーズ ～スパイス＆ハーブの世界を広げる～

日本における洋風スパイス・ハーブの市場は、食の多様化や健康志向の高まりを背景にして成長を続け、20年前と比較するとおよそ2倍の規模に達しています。しかし、スパイスの使用量を欧米と比較してみると、まだまだ少ないのが実情であり、裏を返せば日本においては大きな潜在需要があることを示しているとも言えます。

このような環境のなか、80年以上にわたり日本のスパイス＆ハーブ文化の創造の一翼を担ってきた当社は、お客様の満足度を高めるための施策として、

- 1987年 : フレッシュハーブシリーズ
- 2002年 : トライアルユーザーを喚起する低価格で小容量の「スマートスパイス」シリーズ
- 2005年 : 世界的な食のブランド「FAUCHON」シリーズ
- 2005年秋: LOHAS層に対応した「有機スパイス」シリーズ

を発売してきました。



フレッシュハーブ      スマートスパイス      FAUCHON      有機スパイス

そして、本年3月に、品揃え、価格、デザイン・機能性、信頼感のすべての要素で、初心者から上級者までの多様なニーズにお応えできる洋風スパイス・ハーブの新シリーズ、

「SPICE & HERB」シリーズ

を発売しました。

このシリーズの4つのポイントは、以下の通りです。

- ①豊富な品揃え  
…全194アイテムで、様々なレシピに対応可能
- ②お手ごろなサイズと価格  
…使いきれぬ内容量と、お求めやすい価格
- ③こころ躍るデザイン  
…カラフルな11色のカラーバリエーション
- ④機能的なパッケージ  
…瓶、袋、ミル付きの3タイプで使いやすさを追求



SPICE & HERB

そして、「SPICE & HERB」シリーズが、スパイスとハーブの世界をさらに広げていくために、

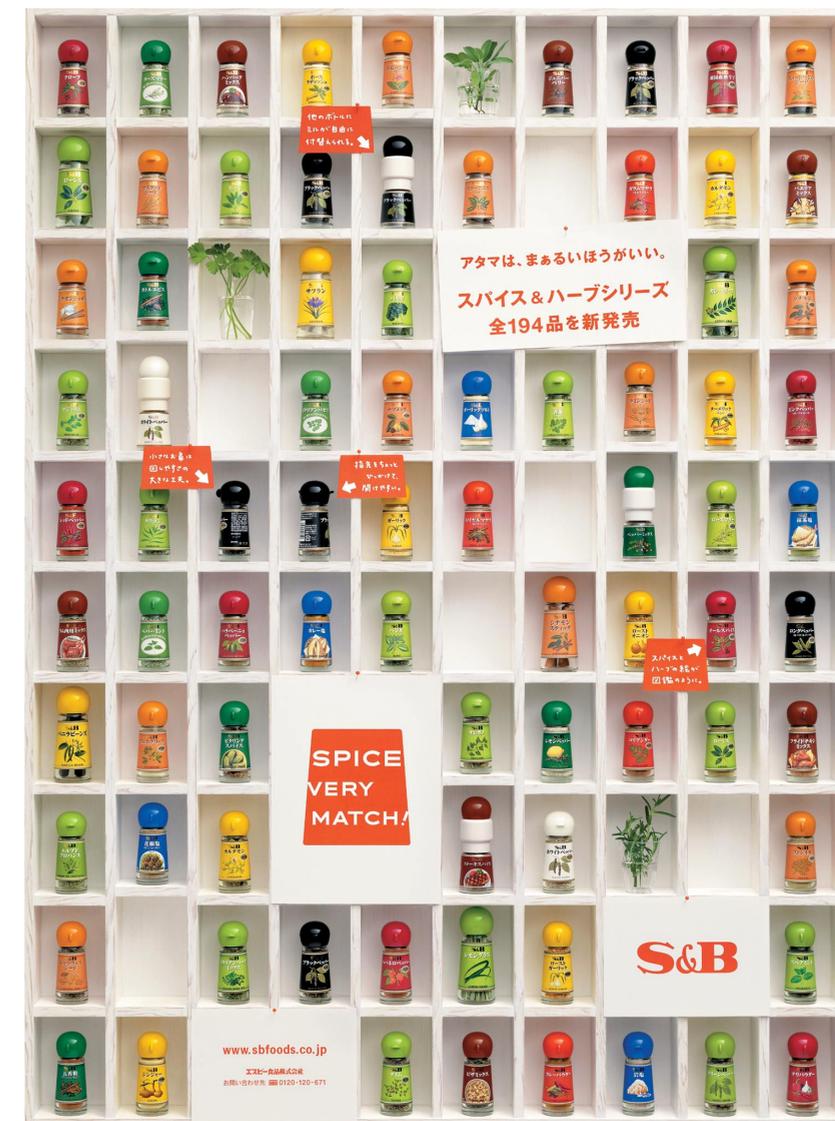
SPICE  
VERY  
MATCH!

- スパイスの種類が豊富  
(Very Much)
- それぞれの人の暮らしに合う  
(Very Match)
- スパイスへの感謝  
(Thank You Very Much)

という、プロモーションテーマを設定し、テレビ・新聞などによる広告展開をはじめ、様々な情報発信を行っています。

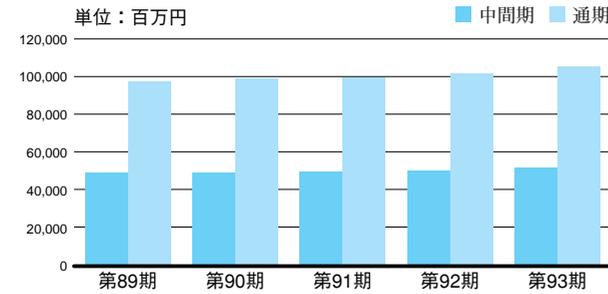
当社のホームページにおいても、スパイスやハーブに関する質問や意見の専門コーナー「スパイス＆ハーブサポートデスク」を開設し、お客様とのコミュニケーションのなかで、スパイスやハーブの魅力や楽しさを提案してまいります。

〔 サポートデスクのURL  
http : //www.sbfoods.co.jp/support/ 〕

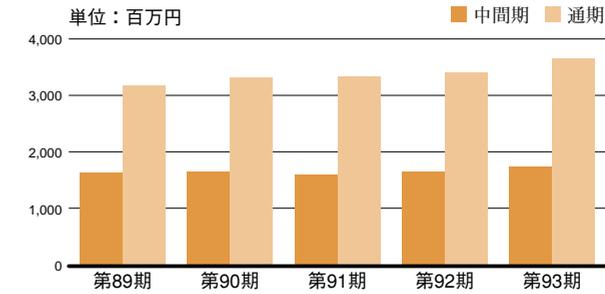


## 業績の推移（単体）

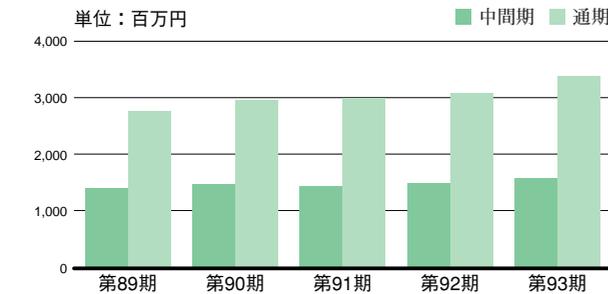
### 売上高



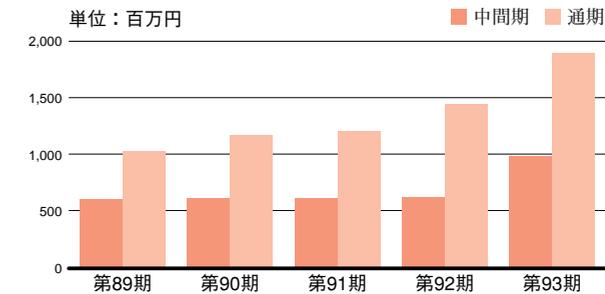
### 営業利益



### 経常利益



### 当期純利益

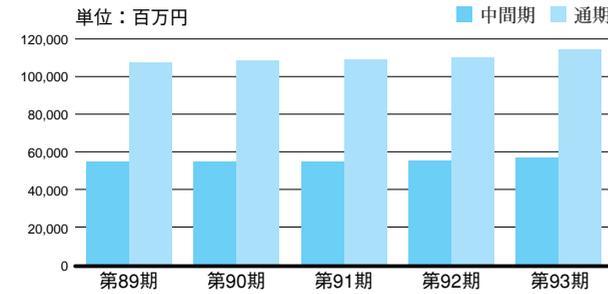


区 分	第89期 (平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで)	第90期 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)	第91期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)	第92期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	第93期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
売上高 (百万円)	97,815	99,389	99,878	101,558	105,353
営業利益 (百万円)	3,189	3,318	3,341	3,405	3,667
経常利益 (百万円)	2,761	2,954	2,995	3,088	3,381
当期純利益 (百万円)	1,031	1,173	1,206	1,444	1,895
1株当たり当期純利益 (円)	29.59	31.93	32.78	39.62	52.57
純資産 (百万円)	16,856	16,974	19,622	20,902	22,674
総資産 (百万円)	74,861	72,995	73,056	75,518	82,572

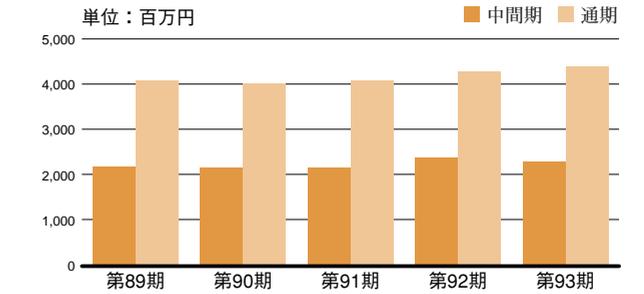
(注) 第90期より、1株当たり当期純利益の算定にあたりましては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

## 業績の推移（連結）

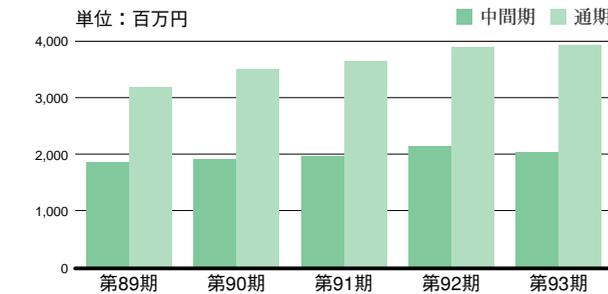
### 売上高



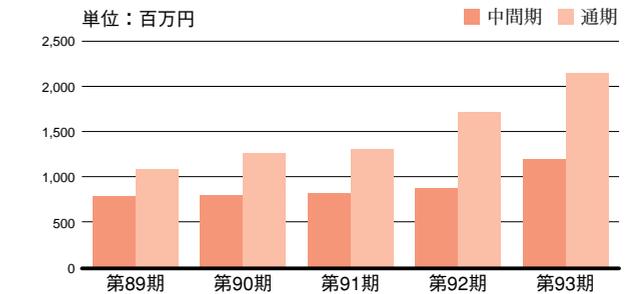
### 営業利益



### 経常利益



### 当期純利益



区 分	第89期 (平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで)	第90期 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)	第91期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)	第92期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	第93期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
売上高 (百万円)	107,400	108,792	108,984	110,470	114,375
営業利益 (百万円)	4,099	4,026	4,095	4,292	4,398
経常利益 (百万円)	3,189	3,505	3,658	3,827	3,935
当期純利益 (百万円)	1,092	1,270	1,307	1,722	2,147
1株当たり当期純利益 (円)	31.33	34.16	34.76	38.97	59.76
純資産 (百万円)	17,420	17,630	20,347	21,695	23,692
総資産 (百万円)	93,233	89,370	87,955	90,016	96,736

(注) 第90期より、1株当たり当期純利益の算定にあたりましては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)および「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

## ■貸借対照表

科 目	当期末 (平成18年3月31日現在)	前期末 (平成17年3月31日現在)
<b>[資産の部]</b>		
流動資産	43,780	39,583
現金及び預金	12,130	8,594
受取掛手形	6,397	6,397
売掛金	15,781	14,703
製品及び商材	3,830	3,255
原仕材	1,954	1,952
仕掛品	954	944
貯蔵品	148	138
前払費用	233	218
繰延税金資産	1,314	1,244
短期貸付	2,760	2,835
金銭信託	500	500
その他	162	134
固定資産	△ 1,338	△ 1,336
有形固定資産	38,792	35,922
建物	20,037	19,478
構築物	6,673	6,637
機械及び装置	367	396
車両及び運搬具	3,877	3,218
器具及び備品	26	31
土地	745	608
建設仮勘定	8,264	8,434
無形固定資産	82	151
借地権	1,237	1,165
商標	41	41
ソフト	5	5
電話加入権	1,109	1,033
その他	50	50
投資その他の資産	29	34
投資有価証券	17,516	15,278
関係会社株	12,276	7,200
関係会社出資	898	918
関係会社貸付	452	488
関係会社長期貸付	205	134
更生債	—	0
長期前払費用	3,170	3,230
繰延税金資産	0	1
再評価に係る繰延税金資産	14	27
退職給与引当金	—	1,887
長期保険掛金	—	952
差入保証金	53	48
敷金	279	263
倒引当金	365	290
繰延資産	181	182
繰社債	△ 380	△ 347
資産合計	82,572	75,518

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

科 目	当期末 (平成18年3月31日現在)	前期末 (平成17年3月31日現在)
<b>[負債の部]</b>		
流動負債	40,970	31,702
支払手形	4,663	4,430
買掛金	9,483	8,236
短期借入金	6,580	6,295
一年以内に返済する長期借入金	2,485	2,344
一年以内に償還する社債	6,000	—
未払金	8,179	7,190
未払費用	299	279
未払法人税等	122	783
預り金	44	38
前受収益	16	17
賞与引当金	932	877
設備関係支払手形	1,103	215
経費関係支払手形	1,059	994
固定負債	18,927	22,914
社債	4,000	10,000
長期借入金	7,549	8,217
繰延税金負債	761	—
再評価に係る繰延税金負債	1,598	—
退職給付引当金	4,800	4,448
債務保証損失引当金	184	213
長期預り金	32	34
負債合計	59,898	54,616
<b>[資本の部]</b>		
資本金	1,744	1,744
資本剰余金	5,343	5,343
資本準備金	5,343	5,343
その他資本剰余金	0	0
自己株式処分差益	0	0
利益剰余金	15,226	13,716
利益準備金	436	436
任意積立金	12,607	12,551
退職給与積立金	1,033	968
厚生施設積立金	700	700
固定資産圧縮積立金	206	215
別途積立金	10,668	10,668
当期未処分利益	2,182	728
土地再評価差額金	△ 3,965	△ 1,369
その他有価証券評価差額金	4,354	1,492
自己株式	△ 28	△ 23
資本合計	22,674	20,902
負債及び資本合計	82,572	75,518

## ■損益計算書

科 目	当 期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前 期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
<b>経常部</b>		
営業収益	105,353	101,558
営業費用	101,685	98,153
営業利益	3,667	3,405
営業外収益	329	274
受取利息	75	64
受取配当金	89	63
不動産賃貸料	102	91
その他	62	55
営業外費用	616	591
支払利息	372	399
社債利息	171	171
貸倒引当金繰入額	49	—
その他	23	19
経常利益	3,381	3,088
<b>特別損益部</b>		
特別利益	126	45
固定資産売却益	29	—
貸倒引当金戻入額	9	5
債務保証損失引当戻入額	29	—
損害賠償金	39	40
受取保険金	13	—
その他	6	0
特別損失	166	717
固定資産除却損	32	132
減損損失	60	389
投資有価証券評価損	6	5
出資金評価損	11	64
貸倒引当金繰入額	—	23
役員退職金	—	101
建物等解体費用	39	—
その他	14	2
税引前当期純利益	3,340	2,416
法人税、住民税及び事業税	872	1,575
法人税等調整額	572	△ 603
当期純利益	1,895	1,444
前期繰越利益	434	440
退職給与積立金取崩額	—	101
土地再評価差額金取崩額	26	△ 1,083
中間配当額	174	174
当期未処分利益	2,182	728

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表に関する注記

- 関係会社に対する金銭債権債務
  - 短期金銭債権 8,988百万円
  - 長期金銭債務 8,733百万円
- 有形固定資産の減価償却累計額 26,381百万円
- 有形固定資産の圧縮記帳
  - 取得価額より控除した国庫補助金等の圧縮記帳額は、2百万円であります。
- リース契約により使用する重要な固定資産
  - 貸借対照表に計上した固定資産のほか、物流センター設備の一部、営業用車両、コンピューターの一部、事務用機器の一部及びコンピューターソフトの一部についてはリース契約により使用しております。
- 土地の再評価
  - 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布 法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布 法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、「土地再評価差額金」を資本の部に計上しております。
  - (追加情報)
  - 当期末において、土地の再評価に係る繰延税金資産について回収可能性を検討した結果、回収の見込が確定でないもの2,568百万円について取り崩し、土地再評価差額金を同額減額しております。
  - 再評価の方法 「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布 政令第119号) 第2条第3号及び第4号に定める方法により算出しております。
  - 再評価を行った年月日 平成14年3月31日
  - 再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額 △1,935百万円
- 保証債務 2,522百万円
- 発行済株式総数 普通株式34,885千株
- 自己株式数 普通株式4千株
- 商法施行規則第124条第3号に規定する純資産額 4,354百万円
- 繰延税金資産の算定に当たり、繰延税金資産から控除された額 236百万円

損益計算書に関する注記

- 関係会社との取引高
  - 売上高 12,832百万円
  - 仕入高、外注加工費他 27,289百万円
  - 営業取引以外の取引高 401百万円
- 減損損失
  - 当社は、継続的に収支の把握がなされている単位を基礎として資産のグルーピングを行っております。
  - 当期において、地価の継続的な下落等により帳簿価額が回収可能価額を下回っている以下の遊休資産に関し、減損損失60百万円を計上しております。

用途	種類	場所
遊休資産	土地	石川県金沢市
遊休資産	土地	埼玉県北本市
遊休資産	土地	千葉県千葉市
遊休資産	土地	神奈川県三浦市
遊休資産	土地	その他 8件

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地については路線価等、その他の資産については処分見込価額から処分費用見込額を控除した額により評価しております。

- 1株当たり当期純利益 52円57銭
  - 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。
  - 当期純利益 1,895百万円
  - 普通株主に帰属しない金額 64百万円
  - (うち利益処分による役員賞与金) (64百万円)
  - 普通株式に係る当期純利益 1,831百万円
  - 期中平均株式数 34,843千株

## ■利益処分

(単位：円)

当 期 未 処 分 利 益	2,182,407,961
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	8,574,380
計	2,190,982,341
これを次のとおり処分いたします。	
利 益 配 当 金	174,203,510
( 1 株 当 た り 5 円 )	
役 員 賞 与 金	64,000,000
( うち 監 査 役 賞 与 金 )	(8,000,000)
退 職 給 与 積 立 金	74,000,000
別 途 積 立 金	1,450,000,000
次 期 繰 越 利 益	428,778,831

(注) 平成17年12月12日に中間配当金として174,213,745円(1株当たり15円)を支払っております。

## ■貸借対照表 (平成18年3月31日現在)

科 目	当 期 末
<b>[資産の部]</b>	
<b>流 動 資 産</b>	<b>49,249</b>
現金及び預金	13,491
受取手形及び売掛金	21,709
有価証券	104
たな卸資産	7,342
繰延税金資産	1,774
短期貸付金	6,000
その他	1,015
貸倒引当金	△2,189
<b>固 定 資 産</b>	<b>47,487</b>
有形固定資産	29,277
建物及び構築物	10,617
機械装置及び運搬具	6,622
工具器具及び備品	1,382
土地	10,561
建設仮勘定	92
無形固定資産	1,287
連結調整勘定	42
その他	1,245
投資その他の資産	16,922
投資有価証券	12,669
長期貸付金	2,675
繰延税金資産	362
その他	2,014
貸倒引当金	△799
<b>資 産 合 計</b>	<b>96,736</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

科 目	当 期 末
<b>[負債の部]</b>	
<b>流 動 負 債</b>	<b>51,220</b>
支払手形及び買掛金	11,932
短期借入金	20,562
一年以内に償還する社債	6,000
未払金	8,581
未払法人税等	155
繰延税金負債	19
賞与引当金	1,102
その他	2,866
<b>固 定 負 債</b>	<b>21,783</b>
社債	4,000
長期借入金	10,025
繰延税金負債	727
再評価に係る繰延税金負債	1,598
退職給付引当金	5,272
債務保証損失引当金	124
その他	35
<b>負 債 合 計</b>	<b>73,004</b>
<b>[少数株主持分]</b>	
少数株主持分	<b>39</b>
<b>[資本の部]</b>	
資 本 金	<b>1,744</b>
資 本 剰 余 金	<b>5,343</b>
利 益 剰 余 金	<b>16,155</b>
土地再評価差額金	△3,965
その他有価証券評価差額金	4,443
為替換算調整勘定	1
自 己 株 式	△28
<b>資 本 合 計</b>	<b>23,692</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>96,736</b>

## ■損益計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	当 期
<b>経 常 損 益 の 部</b>	
営業収益	114,375
売上高	114,375
営業費用	109,977
売上原価	61,646
販売費及び一般管理費	48,331
<b>営業利益</b>	<b>4,398</b>
<b>損 益 の 部</b>	
営業外収益	370
受取利息	66
受取配当金	91
不動産賃貸料	116
その他	95
営業外費用	832
支払利息	709
貸倒引当金繰入額	47
その他	74
<b>経 常 利 益</b>	<b>3,935</b>
<b>特 別 損 益 の 部</b>	
特別利益	148
固定資産売却益	54
貸倒引当金戻入額	35
損害賠償金	39
その他	19
特別損失	322
固定資産除却損失	67
減損損失	62
投資有価証券評価損	6
出資金評価損	11
貸倒引当金繰入額	9
役員退職金	64
建物等解体費用	39
その他	59
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>3,762</b>
法人税、住民税及び事業税	1,015
法人税等調整額	594
少数株主利益	5
<b>当 期 純 利 益</b>	<b>2,147</b>

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■剰余金計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	当 期
<b>(資本剰余金の部)</b>	
資本剰余金期首残高	5,343
資本剰余金増加高	0
自己株式処分差益	0
資本剰余金期末残高	5,343
<b>(利益剰余金の部)</b>	
利益剰余金期首残高	14,485
利益剰余金増加高	2,174
当期純利益	2,147
土地再評価差額金取崩額	26
利益剰余金減少高	505
配当金	348
役員賞与	156
利益剰余金期末残高	16,155

## ■キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位:百万円)

科 目	当 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,467
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	△281
現金及び現金同等物に 係る現金及び現金同等物 の増減	8
現金及び現金同等物の 期末残高	3,149
現金及び現金同等物の 期首残高	10,729
現金及び現金同等物の 期末残高	13,879

## ■会社概要 (平成18年3月31日現在)

- ・商号 エスビー食品株式会社
- ・本社所在地 東京都中央区日本橋兜町18番6号
- ・本社事務所所在地 東京都板橋区宮本町38番8号
- ・設立年月日 昭和15年4月5日(創業大正12年)
- ・資本金 1,744百万円
- ・従業員数 1,111名
- ・主要な事業内容 香辛料(カレー粉、コショウ、洋風スパイスなど)、即席(ゴールデンカレー、ディナーカレー、とろけるカレー、とろけるシチューなど)、香辛調味料(本生生わさび、おろし生しょうが、ねりからしなど)、インスタント食品その他(おでんの素、レトルトカレー、パスタソース、無菌包装米飯など)の製造販売

## ■株式の状況 (平成18年3月31日現在)

- ・会社が発行する株式の総数 88,000,000株
- ・発行済株式の総数 34,885,585株
- ・1単元の株式の数 500株
- ・株主数 3,541名
- ・大株主

株主名	持株数	出資比率
峯栄興業株式会社	3,045千株	8.73%
山崎兄弟会	3,000	8.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,720	4.93
農林中央金庫	1,720	4.93
株式会社東京都民銀行	1,222	3.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,000	2.87
日本生命保険相互会社	904	2.59
セコム損害保険株式会社	881	2.53
大日本印刷株式会社	661	1.90
第一生命保険相互会社	622	1.78

## ■役員 (平成18年6月29日現在)

代表取締役会長	山崎 勝	監査役(常勤)	中山 俊明
代表取締役社長	江戸 龍太郎	監査役(常勤)	小池 宗夫
取締役副社長	佐藤 幸雄	監査役	國分 勘兵衛
取締役副社長首席執行役員	海野 祐造	監査役	松延 洋平
取締役専務執行役員	岡安 久治		
取締役常務執行役員	荻原 敏明	常務執行役員	黒田 恒夫
取締役常務執行役員	佐藤 哲也	執行役員	矢野 邦宏
取締役常務執行役員	前澤 孝一	執行役員	中野 史夫
取締役執行役員	山崎 明裕	執行役員	山崎 雅也
取締役エスビーグループ代表	山崎 達光	執行役員	宮寺 良則

## ■主な事業所 (平成18年6月29日現在)

名称	所在地	名称	所在地
本社	東京都	中部BU	愛知県
エスビースパイスセンター (本社事務所)	東京都	北陸BU	石川県
北海道BU	北海道	関西第1BU	大阪府
東北第1BU	岩手県	関西第2BU	大阪府
東北第2BU	宮城県	中四国第1BU	香川県
関東第1BU	埼玉県	中四国第2BU	広島県
関東第2BU	千葉県	九州第1BU	福岡県
関東第3BU	東京都	九州第2BU	福岡県
関東第4BU	東京都	九州第3BU	鹿児島県
関東第5BU	神奈川県	沖縄BU	沖縄県
新潟潟BU	新潟県	上田工場	長野県
長野野BU	長野県	東松山工場	埼玉県
静岡岡BU	静岡県	宮城工場	宮城県

(注) 上記表中「BU」はビジネスユニットを省略記載したものです。

## スパイスとハーブは S&B

### 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店 〒137-8650 東京都江東区塩浜二丁目8番18号
(郵便物送付先)	日本証券代行株式会社 代理人部
(お問合せ先)	(住所変更等用紙のご請求) フリーダイヤル 0120-707-842 (その他のご照会) フリーダイヤル 0120-707-843 (ホームページアドレス) <a href="http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html">http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html</a>
同取次所	日本証券代行株式会社 各支店
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
株主優待制度	有

#### 【単元未満株式の買増制度のご案内】

当社では、株主様の便宜をお図りするために、1単元(500株)に満たない株式の数をご所有の株主様は、お手許の単元未満株式と併せて1単元になる数の株式を買増請求できる制度を導入しております。お手続きなどの詳細につきましては上記の株主名簿管理人あてにご照会ください。なお、証券保管振替制度をご利用の場合は、お取引証券会社あてにご照会ください。